

サッカーの活動における暴力根絶に向けて

さまざまな差別、暴力に対するJFAの取り組みについて
～リスペクト・フェアプレーの浸透に向けて～

JFAリスペクト・フェアプレー委員会では、さまざまな問題の発生を受け、差別、暴力に対する取り組みをあらためて強化することを確認しました。

JFAは「JFA2005年宣言」で、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を掲げています。この理念を追求するためには、JFAのあらゆるメンバーと関係者は、人種、性別、宗教のみならず、社会的弱者に対するものも含め、あらゆる差別を排除し、リスペクトとフェアプレーの精神の下、活動していく必要があります。JFAは、世界で最も愛されているスポーツであるサッカーの各国、地域の加盟協会を取りまとめる統括組織・FIFA(国際サッカー連盟)の憲章にある反差別および反人種差別的姿勢の考え方を遵守し、日本において、その精神を普及、伝播、実行していきます。

JFAのスタンス

JFAの基本規程では、以下のように明記しています。

第3条(遵守義務)

4.人種、性、言語、宗教、政治又はその他の事由を理由とする国家、個人又は集団に対する差別は、いかなるものであれ、厳格に禁止されるものとし、これに反する場合には本規程及びその附属規程に従って罰則の理由とされることがある。

すなわち、規律に関する規程に、差別等があった場合の処罰について、FIFA懲罰基準に準じて、厳格に規定しています。また、役員職員行動規範を定め、役員職員に正しい行動を求めるほか、指導者規則に暴力撲滅のための規定を設けるなどして、差別、暴力の根絶に対して断固たる強い姿勢で臨んでいます。

1. 取り組みの基本的な考え方

国際化、生活様式の多様化が進み、さまざまな価値観が持たれる現在、日本社会のみならず、サッカーを取り巻く環境においても、差別や暴力に対する認識等について、これまでも増して脆弱な意識、思考、行動が見受けられるようになってきました。われわれのスポーツにおいて、またわれわれの暮らす社会において、差別、暴力(暴言・ハラスメントを含む)が本当に根絶されるために、JFAはこれらに対して具体的な行動をとっていきます。

2. 具体的な施策

具体的な施策としては、以下の柱に基づき進めていきます。

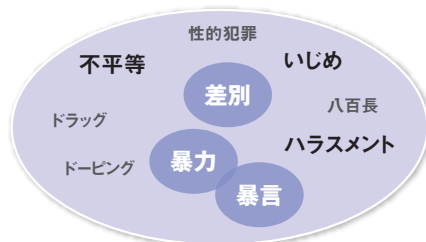
(1) 環境整備(未然防止対策、有事対応)

- ・ 差別および暴力事例の洗い出し検討
- ・ 諸規定の新設、見直し
- ・ マニュアル整備(教育、リスクマネジメント、有事の対応)
- ・ 窓口体制の整備、充実(whistle blowing機能)
- ・ 実地トレーニングの実施
- ・ 対応／教育／啓発担当責任者(ウェルフェアオフィサー)の設置
- ・ コンプライアンス部門など各種委員会との連携

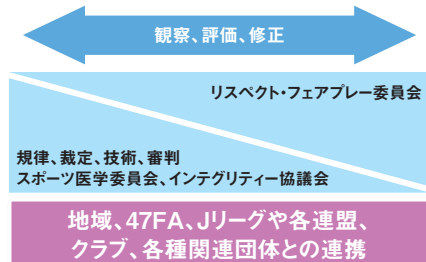
(2) 広報、啓発活動、他団体との連携

- ・ 広報(ホームページやSNSを利用した普及、伝播)
- ・ 対応／教育／啓発担当責任者(ウェルフェアオフィサー)の設置
- ・ プロモーションツール作成、掲示
- ・ Anti-差別・暴力根絶Day(Week)の設置
- ・ 他団体、自治体等との連携

国内外のサッカー界において顕在化する問題に対して



環境整備	予防・啓発・プロモーション
・ 対応、教育、啓発担当者(ウェルフェアオフィサーの設置)	
・ 規定新設、見直し ・ マニュアル整備(リスクマネジメント) ・ 窓口体制整備(whistle blowing機能) ・ 実地トレーニング実施	・ プロモーションツール作成・掲示 ・ Anti-差別／暴力根絶Day設置 ・ 他団体、自治体等との連携



(3) 各種施策の観察、評価、修正

JFA自ら、またJリーグ等の各種連盟、各地域・都道府県サッカー協会(FA)との連携を持つ。

JFAリスペクトキャンペーン

広報活動の一環として、サッカーやスポーツの現場で顕在化するさまざまな差別や暴力に断固反対し、これらを根絶する意思を強く示すため、JFAのリスペクトキャンペーンの一つとして、「差別/暴力根絶週間(仮称)」を計画しています。サッカーやスポーツの現場で顕在化するさまざまな差別や暴力に断固反対、根絶する意思を強く示し、これらの問題発生を未然に防止するとともに、根絶に資することが目的です。

期間は、FIFAフェアプレーデイズ2014を含めた、9月5日～14日を予定しています。このキャンペーンにおいて、JFAのみならず各地域や都道府県FA、各種連盟の協力の下、リスペクト(大切に思うこと)の考えをベースにさまざまな差別、暴力に反対し、根絶の推進活動を実施できるようにしたいと考えています。

2014 FIFAワールドカップ ブラジルでの取り組み

2014 FIFAワールドカップブラジルの準々決勝4試合において、反差別のプレマッチセレモニーが行われました。両チームのキャプテンが差別反対を宣言し、両チームとレフェリーが「SAY NO TO RACISM」のバナーのもとに集まり、サッカー界が差別と闘うという基本的なスタンスを示しました。

反差別デーについては、毎年いずれかのFIFA主催大会で行い、人種をはじめとするあらゆる差別をサッカーから根絶する必要性における認識を高めようとしています。FIFAワールドカップでは、2002年大会の準決勝で実施して以来、今回で4回目になります。目的はサッカー界最大の大会を通じて、世界中の多くの人々にあらゆる差別と闘う運動に参加するよう、明確なシグナルを送ることです。サッカーは大きなインパクトを持ち、特に選手が若い世代に大きな影響を持つことから、この問題に重要な役割を果たし得るとの考えのもとに行われています。

さらに今年は、選手、ファンも巻き込んで、意識を高めることを目的に、ソーシャルメディアのキャンペーンを実施しています。「SAY NO TO RACISM」を、自分自身の写真「セルフイー」で、自身のソーシャルメディアに掲載するというものです。